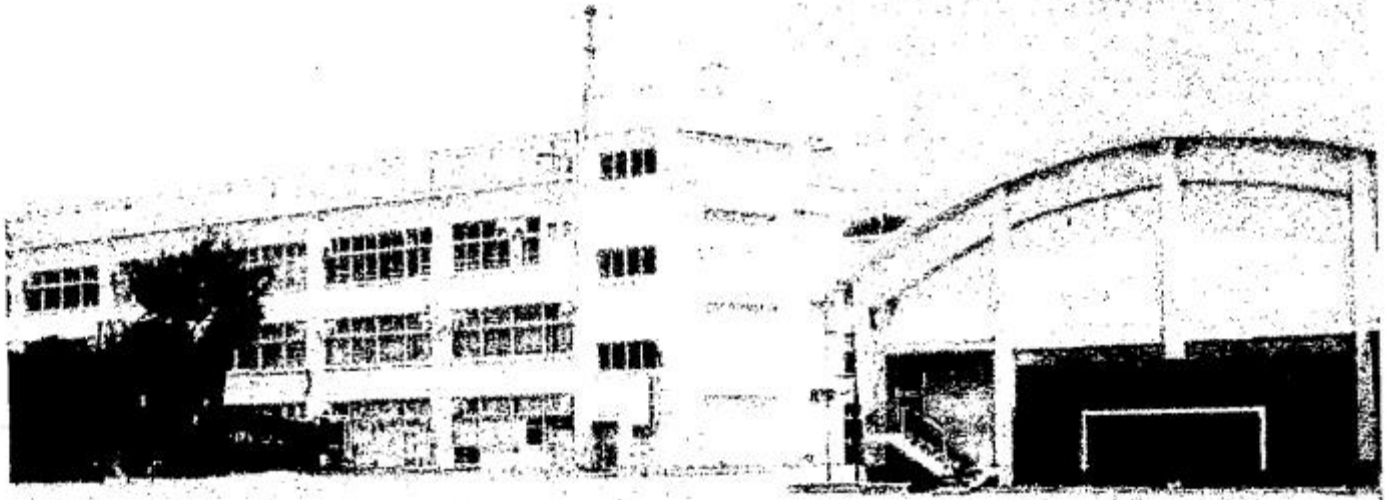




2006年(平成18年)10月30日発行 第10号

西田小学校・同窓会 会報

発行者 西田小学校同窓会

編集責任者・田村晋一郎(二期生)

同窓会・会長 挨拶

土屋忠夫(3期)

2006年、7月15日に新会長に就任した土屋忠夫(3期)です。一念発起して、今後5年間の会長任期を務めますので、ご支援のほどよろしくお願いします。新しい役員体制もスタートし、役員全員が協力しあって、作業を分担して行く態勢も整い、早速、行動を開始しています。

同窓会発足以来15年近くが経ちました。現状を分析するに、これからの5年間が同窓会存続にとって重要な期間になることが判明しています。そこで、これからの5年間を、母校70周年記念祝賀会・準備期間ととらえることとし、その準備に傾注することを最優先課題としました。これは必然的に、同窓会の組織・財政の建て直しに取り組むことも意味します。

創立70周年目は2012年6月です。祝賀会には多くの同窓生が駆けつけ、母校にささやかな記念の贈り物を準備することを当面の目標にしました。

同窓会の長期の計画として、各卒業期(クラス)別の横の組織化を促すことがあります。母校貢献を主目的とする全校同窓会と、懇親を主目的とする同期会との連携を模索します。

同窓会の最大の課題は収支の改善です。従来の終身会費1,000円制では同窓会を賄えるはずもなく、また小学校卒業時に終身会費を払ったかどうかで卒業生を区別する矛盾点を解消する必要がありました。この代わりとして、

会の維持費として、毎年 500 円(会報作成・郵送代他)の維持会費を頂戴することを進める予定です。卒業から 20 期経過した時期から、維持会費を頂く線で調整を続けています。これにより卒業生全員が同窓会の会員となります。

西田小学校の卒業生は 10,400 人余りとなっています。会報や連絡事項伝達は同期会やホームページを通じて行う事を基本とし、一部に個別郵送手段を併用することになります。

学校は本年度、生徒数も増え、頑張っています。1 万人の同窓生の温かいサポートを期待します。

同窓会名誉会長 挨拶

杉並区立西田小学校長 若杉 隆

9 月 13 日、6 年生の移動教室の引率が終わってから、小雨の中、田端神社の祭礼に行ってみました。住宅地に囲まれた神社であり、雨も降っていることもあり、ひっそりとした境内を想定していました。しかし、その予想は嬉しくも裏切られました。参道には数十軒の香具師の出店が並んでいました。保護者と一緒の西田小の子どもたちにたくさん出会いました。浴衣姿の女子中学生たちにも会いました。野球部の監督さんたちとビールを飲みながら教育談義に花が咲きました。私は田端神社のにぎやかさが大変好ましく思われました。商店街がほとんど存在しない西田の学区域に、豊かな地域性を残している場のあったことがうれしかったのです。地域の教育力が薄れてきているのが現代的社会です。その中にあって、田端神社の祭礼には、昔から脈々と続いてきている伝統的な風土が認められたのです。

西田小を取り巻く地域の方々が、いろいろな機会に子どもたちに関わってくださっています。西田自治会のラジオ体操、青少年育成委員会のスケート教室、子育てネットワークの遊び市、PTA の読み聞かせ活動や秋のコンサート、おやじの会の学校キャンプ、土曜クラブの様々な行事、野球・サッカー・ミニバスケット等の社会教育団体の活動等々が継続的に組織的に行われています。さらに、防犯パトロールとして地域の安全な町づくりのために巡回していただいている組織もあります。このような自然と蓄えられてきている地域の力を、学校としても大切にしながら協力していきたいと思っています。

この度、西田小の同窓会を再生しようという動きがあることはうれしいことです。西田小を巣立ってこられた卒業生は、昨年で 10,441 人を数えます。その中には、現在も西田小の地域に住んでいらっしゃる方も多いことでしょう。さらには、お子さんやお孫さんを西田小に在籍させている家族もたくさんいらっしゃるはずです。それらの方々が様々な場や組織のもとで西田の子どもたちのためにご尽力いただいているものと感謝する次第です。そして、西田小の同窓生の一員という意識でもってご活躍いただけると、卒業生が積み上げてきた西田小のよき伝統が受け継がれていくのではないかと考えます。西田小を見守り、ご支援していただく核の一つとして、同窓会が機能していただけることを願っております。

副会長挨拶

副会長 中村昭(7 期)

このたび、同窓会副会長を拝命した中村昭です。ご存じの通り、どこでも同じかも知れませんが、同窓会活動は世間一般の関心度合いの低下により、人材や資金面などで、次第に困難になっています。世間からは、役員の一部が集まって飲み食いしているのではとの批判がありましたが全くの誤解です。会長、副会長や各理事が中心となり、文字通り手弁当で、仕事

の合間を縫ってどうしたら会員の関心をよび、会の活動を活性化することができるか努力を続けております。いわゆる、お年寄り会員の茶飲み会ではなく、西田歴史はなしなど、地域に密着した活動を通じて、かつて西田小学校に学んだ者のネットワークを構築したいと思い、微力ながら努力を続けていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

副会長挨拶

副会長 渋谷好重(8期)

この度、土屋新会長より委嘱をいただき、中村昭氏とともに副会長をお引き受けすることになりました。中村副会長と連携をはかりながら会長を補佐し、西田小学校同窓会の円滑な運営と発展のために、微力ながら最善を尽くしてまいります。今までの同窓会の運営においては、理事会・世話人会・総会などが主体を占め、若い方々から敬遠されがちでした。これを機会に同窓会の運営に新風を吹き込んでまいります。同窓会自身を自己参加型のものにしていきたいと思うのです。それには、同窓会のホームページを運営の主体にもっていけたらと考えます。会報にとって代わるもの、学校の行事やイベントとの共催の企画、同窓会独自の企画、同窓生の活動の様子、同期会の様子、同窓生からの投稿など、ホームページがはたす役割は、多々あります。ホームページを充実させ、おおいに活用していただき、実質的な同窓会の運営を図りたいと思います。西田小学校には、ゆうゆうハウス、多目的ホールなどがあります。この場所や体育館などをお借りして、いろいろなイベントやスポーツなどが実行できます。特に若い世代のみなさん、気楽な気持ちで積極的に、同窓会活動に参加して下さい。同窓会での橋渡し役として頑張りますので、よろしくお願いいたします。

理事挨拶

田村 晋一郎(2期)

西田小学校 1945 年 3 月卒田村です創立 50 周年の記念周年を故野口洋介君の発起の下に立ち上げた時に、同窓会も創設させました。彼は夭折されましたが2代3代会長・下田氏、宇田川氏、そして今回土屋氏と年月が経ち来年西田小 65 周年を迎えます。新会長の下、役員全員 70 周年に向けてがんばります。宜しくお願いします。今回同窓会会報編集責任者となりました不慣れですが頑張ります。

理事挨拶

井上正之(6期)

西田小学校から歩いて 10 分ぐらいの西田町(現在の荻窪 3 丁目)で生まれ、以来、地元に住み続けている関係で、野口会長の頃から 6 期生の理事を引き受け、今回、土屋新会長の西田小学校同窓会を活性化したいという方針に賛同し、再度ホームページの作成、運営担当の理事としてご協力させていただくことになりました。現在はIT花盛りの時代ですから、インターネットを活用し、ホームページの書き込みサイトを中心に充実すれば、安上がりで年齢に関係のないコミュニティーが実現しますので、是非、その方向で充実したいと思っております。趣味のコーナー、自由に自分の意見を述べるコーナー、海外旅行の体験談などのコーナーを作っていきたいと考えております。その時に問題になるのは、高年齢者(いわゆる情報弱者)で、パソコン、インターネットは関係ないと言われる先輩方です。われわれの同期生でもたくさん居りますので、どうしたら良いか、どなたかアイデアがあったら、是非、教えて戴きたいと思っております。宜しくお願いします。

理事挨拶

田辺恵一(17期)

現在、西田小の土曜日学校(西田土曜クラブ)の実行委員長を開設以来4期つとめさせていただいています。土曜クラブは区教育委員会と共催の社会教育事業であり、学校を活動の場として利用し、地域の方々の協力により地域の子どもたちが健全に土曜日を過ごすためにお手伝いをするボランティア事業です。

昨年の12月に同窓会の皆さんの協力をいただき、地域交流事業として子どもたちと地域のお年寄りが一緒に楽しむことが出来るパントマイム&バンド演奏を実施しました。日頃見る機会がないパントマイムを子どもたちは目を丸くして見ていました。

「子ども達の喜ぶ顔が見たい！」土曜クラブのささやかな願いです。同窓会の理事をつとめながら、これからも母校の発展に貢献して行きたいと思っていますのでよろしくお願い申し上げます。

理事挨拶

坂本正夫(18期)

昨年から同窓会の理事を務めさせていただいております第18期(昭和36年卒業)の坂本です。

同窓会はなかなか卒業生に関心を持ってもらえず、人集め、金集めに苦労しているのが現状です。西田小全体の同窓会は存亡の危機にあっても、たぶん個別のクラス会や学年毎の同窓会はある程度活発に行われているのではないかと思います。私はこうした会の幹事の方々に西田小同窓会の推進役になっていただき、全体としてのまとまりを形成できないかと考えております。私自身、これまで2つの個別の同窓会に関わってきました。一つは第18期の同窓会です。西田小創立50周年記念の時に同期に呼びかけ、スタートしました。その後、何回か同窓会を開いており、細々ではありますが、現在も継続しております。

もう一つは恩師岸上修先生の西田小の教え子が作っている昭和25年から37年卒業までの5つのクラス会です。2003年に先生が勲五等瑞宝章の叙勲をされた時、この5つの同窓会が合同でお祝い会を開催し、100名を超える同窓生が一堂に会しました。

私は同窓会全体の運営をどうするかということについて考えなくてはいけない立場にありますが、まずはこうした自分のまわりのクラス会、同窓会のキーパーソンに働きかけ、同窓会員を増やす努力をしていきたいと思っております。

理事挨拶

武井邦弘(29期)

29期生(昭和47年卒)の武井邦弘です。このたび理事に加えて頂けることになりました。若輩者ですが、宜しくお願いいたします。荻窪団地や都営住宅のジュニア世代である我々は、1学年6クラス、7クラスが当たり前で、教室が足りず、私が4年の時には確か教室が図工室だった記憶があります。また、「ウルトラマン」と「巨人の星」、「アタックNo.1」と「サインはV」の世代でもあります。

卒業から34年経ちました。うちの息子も西田に在学しておりますが、宇田川前会長のご子息、岳志君と僕が同級で

すから、うちの息子たちは「西田第3世代なんだなあ」などと感じております。彼らにとっても貴重な「同窓会組織」にして行ける様、微力ながらお手伝いさせていただきます。どうぞ宜しくお願いいたします。

(寄稿)同窓会に寄せて

西田小学校副校長 金指京子

9月25～29日に学校見学を実施しました。のべ70名余りの方がいらしてくださいました。子どもが初めて「学校」という集団のなかで生活するわけですから、保護者の方の「よい環境を」という願いは当然です。

何日目の説明会の折、保護者のお一人が、「西田小学校を卒業したんですよ」と懐かしそうにおっしゃっていました。校舎や卒業制作の作品、裏庭や校庭に、自分の小学生の時の姿がオーバーラップしているようで、声が弾んでいました。

卒業する学校は、小学校、中学校、高等学校、大学といろいろですが、小学校はやはり、担当の先生と校舎への思いが強く残っているのではないのでしょうか。数年後、十数年後、何十年後に学校を懐かしみ、校舎でクラス会や同期会を開催しようとしたとき、開かれた学校であるよう心掛けて行きたいと思っています。

卒業生たより

志甫哲夫(1期)

モーツァルト生誕250年にあやかって、6月某所においてモーツァルト曲のSP盤名演あれこれのレコードコンサートを催し、50人近くの方々が愉しんでくださり、妙演に拍手もありました。お誘いに応じて1期卒大西秀男君、2期の花柳伊寿穂と和田須美子さんが聴きにきてくれました。

7月15日に西田小同窓会世話人会がありました。理事側9名の出席に対し世話人は私のほか2名だけという少なさがっかりしました。世話人会は同窓会会員を代表して、試案を検討採決をおこなう大切な役割があります。諸期世話人各位にはどうか都合をつけて会に出席し、色々ご意見を出して頂ければ有難いと存じます。

卒業生たより 「西田小学校がもえている」

花柳伊寿穂・和田須美子(2期)

ヒュールヒュールヒュール頭上から何かが落ちてきた。ダーン！！激しい轟音。「スミ子ちゃん」母の絶叫。もう死ぬ！思わず地面に身を伏せる。その後どこをどう走ったか、気がつけば麦畑(現在の環八)の中、夜空に真近く火の粉を散らして真っ赤に燃え続ける炎の海を見つめていた。西田小がもえている！私達の「ピアノ」が！昭和20年5月25日の大空襲の夜。翌朝、駆けつけた私たちはまだ燃り続ける母校の壊滅の姿に呆然。校庭に焼夷弾の不発弾が山と聳えていた。昨夜、私の1メートル前に落ちたのがもし不発弾でなかったら！改めてぞっとしたと同時に運の強さを感謝した。その後、機銃掃射で無念の死を遂げた友人の思い出を胸に今日まで生きながらえて来た。日本舞踊のリサイタル、海外公演など自分の道を歩めるのも平和なるが故、世界にたった一つの「武器を持たないくに」のお宝のお陰と私は信じている。戦争の話は古いという。しかし今でも地球上で戦争が続いている。そして恐怖の日々の中で「パパどうして殺されるの、僕、そんな悪い子なの」と言いながら死んでいく子どもたちが大勢いることを忘れてはいけないと思います。

地球に平和を。

同期(級)会 便り

二期生同級会(1945年3月卒業)

2期生の会は二十数年前より毎年1回開催されてきた。卒業60年を期に今年は8月26日に荻窪「源氏本店」で行い、13名の出席をえて盛会であった。皆の年齢も70歳を過ぎ、今後は半年毎に開催する事になった。次回は本年末か来年の正月となる予定。幹事は持ち回りで1名と、田村の2名で務める。体力の続く限り頑張ります。(田村)

三期生同級会(1946年3月卒業)

卒業60周年を機会に、久しく途絶えていた会を復活。3月17日、参宮橋の代々木倶楽部に男女18名が参集した。生徒当時の古い写真などをスクリーンに投影したりして、歓談した。皆73歳前後となり、毎年集まりたいとの意見が出て、2007年4月20日に同じ場所に参集することが決まった。新たな参加者を期待。

今回の参加者: 荒井(神崎)、平山(金)、関(鶴田)、橐、中原、矢内(松坂)、阿見、石塚、石田、菅、岡本、北岡、平山、花崎、細井、田村、土屋、山内。

同窓会活動報告

■合気道教室

財団法人・合気会 合気道5段 渋谷好重(8期生)

西田土曜クラブ活動の一環として、本年1月14日(土)と10月14日(土)の2回学校の体育館で開催され講師を務めました。両日ともに低中学年児童と父兄及び同窓会の数名合わせて30名内外の方が参加。体育館にマットを敷き、渋谷が主講師となり、杉並合気会の中村さんと永瀬さんのご協力を得て、2時間にわたり実地指導を行いました。

合気道は小さな体でも丹田(へその下あたり)から出る気の力で大きな人を倒す事ができます。相手の力を利用して、円の動きと体をリラックスさせることによってできます。先ず準備運動から始め、相手が攻撃してきたときの体のさばき(入身)、手をつかまれたときに手はずず(手ほどき)方法や相手に倒されたときの受け身、それに合気道の基本技を手ほどきを行いました。多くの方が楽しく練習に励み、面白かった、役に立ったと喜んでいただいた。今後も機会があればまた行いたいと思います。

■西田歴史ばなしの会

同窓会の活動の一環として、PTAの主催のもとに5月からスタートした。11月12日(日曜日)10時から4回目の会が行われる。(場所:西田小・図書室)

西田小周辺の昔の話を歴史ばなしとして纏め、プロジェクターを通して説明している。話題提供者は三期生・土屋忠夫がつとめている。これまで、地域の地形の特徴や、太田道灌、品川氏、岡部一族、服部半蔵など中世から近世にかけて、この地で活躍した人物像を追って来た。これからの予定は次の通り。

第四回: 11月12日(日) 地域のスポットを選び、昔の話をを行う予定。

五日市街道: 七曲りの難所の謎解き。

西田たんぼ、大宮前新田: 稲作・畑作・年貢のはなしなど。

善福寺川: 川の形成経過、名前の由来ほか。

大宮八幡宮: 上杉謙信軍による焼き討ちなど。

他近隣の歴史ばなし。